

FRN 79-2 -7 -5 -7

資料名 筑前早鑑

刊・写

3

軸・帖
冊

所蔵者 九州大学附属図書館

函名 680-ナ38

撮影 富士ゼロックス(株)

昭和54年3月7日

福岡市民図書館

680
子
38

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17

0 5 10 15
PAT. NO. 562819

Handwritten text in a vertical column on the left page, enclosed in a rectangular border. The characters are in cursive script (kuzushiji).



680
子
38

續後記所載之神社數卷八百五

福皇社廿三 博多社廿三 昭宗八十八

宇原社二十二 怡宗廿三 志保社八十二

河原社廿三 壽德社廿三 表物社廿二

古田社九 宗德社七十八 秋子社廿八

中尾社廿六 上尾社廿七 夜間社十七

社人化子若人化人心難言也

外洋諸國中凡有人物

是行也實為正德年未去以江戶所載也

一延壽司身十卷神名卷下流松園十九所伏二十六

宗德社四社宗德社一社 宗德社二社 宗德社三社 宗德社四社

如河社三社如河社一社 如河社二社 如河社三社

昭宗社一社昭宗社一社

上尾社一社上尾社一社

下尾社二社下尾社一社 下尾社二社

夜間社一社夜間社一社

以上十九神

予右神社社殿本社相殿攝社末社中殿末社

糟屋社三座

志保社一社

昭宗社一社

上尾社一社

下尾社二社

夜間社一社

本社唯一兩社を分別再定之書改正之者 予希
也

○福因神社 福を奉り 西甲良神
本行神

一若一王子 奉丸の内 若祠有り

若一王子 天照太神也 又延喜格以下云云

祝多し是不可用也社者奉丸地延喜格

社有之村兼社之南有下金中地

家は好冬街が里記史ナリ

又奉社神奉丸 葉安ら 是也奉之

若丸の長が社神ナリ

一 天満天神 城門ニ丸東由端土の有り

未社二戸 福行神 辨才天

四神社アル亦岩保之鬼門ニ為シリ依城守

也乱ヲ拂ニ奉福奉り有と事ヲ引續ニ之

十二年辰澤川島中大字村天神ヲ訖語テ

意ニ神社ヲ創立セリ

一 延喜大御神

左殿 丸殿 小島大明神
白山大権以

中殿 延喜大御神 神直日神
大道日神

右殿 延喜大御神 十柱川津御命
八幡大神

後天保十三年 忠之公は神令小島亦移サレ上
 神土并土俗之信念者ニ新創造之有ク廿村橋口在
 去徳元ノ山寺幸号者今地改移サレテ土俗壇
 トシ行細末トシ至リ廿部橋口寺ハ庄村ノ天神ヲ祀
 宗山寺夷坪ハ 長政公墓亦ヨリ召連ラレシ
 百徳若ノ河守文河守智ノ師トシ玉ヲ
 長政公ヨリ墓徳元ノ寺所蔵ノ新ノ墓也ノ為年餘
 於此所祀所ノ自村ノ部北村ノ由百八十石此能也
 可在願分示也
 十月五日 長政公判

吉祥院法印

知以月派

- 一 寺九石寺名之中寺
- 一 寺八石七石六石中

新ノ月村
 五部九村

元和七年十一月五日 長政御判

吉祥院法印

吉祥院ハ 長政公 忠之公 光之公 細政公
 等附也ノ也

長政公ヨリ

- 一十二天十二收 唐年 一溫察條一收 一大醫藥條一收
- 一唐鏡許一收 一早圖一收 一唐茶入
- 一唐水鏡 一車軸茶卷 一湘人茶入
- 一湘人水指 一花鳥唐一雙 一神領許文

忠之公ヨリ

- 一全漢全泥兩界大曼陀羅二幅
- 一全漢全泥大不動兩界中尊二幅 多向滿中
- 持佛堂ノ奉尊許二幅 弘法筆
- 一牧溪寫墨墨條一收
- 一不動毛深二幅 法華 一全泥鼓音

- 一兩界大曼陀羅
- 一曼曼陀羅 一十二天十二幅 一大師明神二幅
- 一十二天 五尊 大師明神 曼曼陀羅
- 一漢字坊當社額字一幅 一古尊在ノ奉院
- 一全佛山圖 一淨細一振 一川一振 一川一
- 一淨太刀 一小服柄 長口 條
- 一遺唐池芳當社 水代 淨字進口證文一通
- 一北河部屋敷系山ノ内 淨中坪茶等 北寺水澤并
- 山三ノ六ノ百餘年進ノ沙證文一通

光之公ヨリ

二代目法印長傳信意承之代目蘭利正音房
弟忠信代可蘭利正海房弟傳

おまふ。詩剣五世二年号不洋寛永十七年
文可切合ヲ割之世ハ清賦房也

女社ハ恒玄ノ明神ノ末社也。上恒の明神
の節ハ神樂世若又三行幸ハ流不也

高社傳記一巻 蘭利正音房
相違村山は奥 華右國之信

○水鏡天神 祭禮九月廿八日

早川の渡天神云又宮人天社云々

末社 福行明神 妙樂堂三十二面觀音

石島片一基 在室乙年丁巳五月法法在
社願田島敷一町也一坪内 個返高
社宿坊合ヲ松岳山極教寺取育院ト号
用山信賴還二世子中還室二世子中還室二世

法身還交

女神号の由來世傳信意の管轄明神ノ神像
此の寺より古事所來向の寺あり室乙年
取二度納入不帰此の寺に建てしより室乙年
道ハ誠女華中より赤井川と流るる水鏡
此の法身還交の由來也

社前井垣ハ元禄八庚申五月造之也
二門造之儀未詳
全別力士兩社同日奉安因縁金一割造
末社ハ天神社ハ同日奉安因縁造之也

末社

借置殿 半武月多様と奉り

寺地堂 延徳報言六箇文 治承二年造之

寛政坊舎 柳意之年始テ創之

鳥羽山 法隆寺威徳院 一カ所云

社人

當社の古地言の傳ル

社願書云云 延徳元年二月の事也 古ハ
神願多かりし事今ハ鳥羽村の古地言傳
杯云云 延徳年中ハ村中も古地言の傳言
しりし事 延徳元年ハ延徳元年ハ延徳元年
神切屋名古國ハ村中傳言の時ハ月守姫様
揚せし事ハ鳥羽村中も古地言傳言
古地言の人々の傳言を古地言傳言ハ
古地言傳言ハ古地言傳言ハ古地言傳言
古地言傳言ハ古地言傳言ハ古地言傳言
古地言傳言ハ古地言傳言ハ古地言傳言

若菜之侍記とる利 神切屋底之轉とて
河内朝の内子鑑はなりし鳥飼氏の子孫と云
ふはと松島岡村中分りも河内朝中分りも
と云ふは十三年の比も河内朝中分りも
つけた子たぬ討死を祀りし事古戦満記に
今有ゆく神社と云ふに少く半きり
二事也社前のたなも松島は極く
〇百道系八幡宮 祭禮九月十日

流瀧馬相傳

中 八幡太神
右 聖母太神

末社 印輪太神 女神 天春庵
松河美明神 天満太神 金水に奉遷
石島北一基 飯の文字の松島入流法皇の御事

貞享元年己丑 光之公建之

社願 貞和元禄十年

社願外 石之川 貞和元年一月
石之川 貞和元年一月
石之川 貞和元年一月

社願 石之川 貞和元年
貞和元年 石之川 貞和元年

河切親公 源河公 榮華公 一既谷
源人公 此新公 橋公 以上八公有

○ 東照大権取 橋井家 氏 家原將軍の贈号也

常陸廟社受母之年より送受始り徳意元心
成化に徳意元心年辰五月十日送受り廿日
和意寺の儀仲殿より河神殿と河海殿と
門前江の辺よりお代宿海場此下向兼河神殿
のり並河兼清屋 社信等三橋を以て
のり先寄意寺より河海殿と兼河神殿
のり河神殿より河海殿と兼河神殿也

社願言三百三石六斗七合凡毎三斗

外三河法年十二俵月一俵也

春六石宛二人扶持宛 社信二人

日六俵宛一人扶持宛 持津者二人

文司の坊舎と馬出山禪祥寺 紅源院

紅源院同春信 春光二世光親二世 二世

石島庄一春 貞享二年七月 光云判之

歌の文を愛珠院行良想は教をうはせり

羊の端、貝系、信播、筆者、小江、海市

秋表送事、此年、行、水、市、受

家康公の正室と秀忠公と 朝廷の乞ひ給
の時 朝議あり二條園白曜宮の日に権政と
東光権政の同坐切人々養を以て今山川亦在
秀忠公の事也権政の靈威の権政小徳と云ふ
養を以て多徳と彼中事也大権政の定ちられ
此時 宣命有来

家康公の正室國王代一説に記す所は 清和天皇
廿六代之正苗裔八幡寺而義家嫡孫也
庶孫新田大炊田義重男徳以義家子
八十六代贈大内之意忠仰子也

家康公天文十一年十二月廿六日於冬別荘
湯治也元和二年二月十七日薨去以享七十
二歳夫人内子二人

- 義家 頼朝長男八幡寺
- 義國 義家二男 北條義時 是初田原利忠の祖
- 義重 義家三男 北條時義
- 義季 義家四男 徳川家康
- 廣忠 義家五男 上代北條時義の孫也
- 家康 義家六男 十七代

從一任家康正室は將軍家康の三子也後列女
源氏長者贈正一任大政大臣又号康也と権政

家宜	家光	家光	秀忠
	延宝八年葬	延宝八年葬	家永九年葬
	宝永二年葬		

○博多 神社 伊弉波命也

一 柳田社 相殿

凡天照大神
 中柳田大明神
 右祇園大明神

此社始於南宮中として大宰府社寮の通称あり
 世に河内郡の王臣がく流方より此社を造り
 造り給

柳田大明神の社人皇孫代 孝謙天皇御宇
 天平宝字元年に河内守の柳田社と改称され
 板柳田と改稱す

祇園の社、素盞鳴也。世に神也。新証の如し。
人皇千代、朱在院之。天武天皇、百二年、素盞鳴
海伐初度の追討使に、新好古相、相持は、
会戦、おむ神の地、おむ、おむ、おむ、山城、
祇園、素盞鳴、おむ、おむ、おむ、おむ、
軍、記、おむ、おむ、おむ、おむ、

本社、説、曰、祇園、社、は、
年中、おむ、おむ、おむ、
の、おむ、おむ、おむ、
天、武、天、皇、と、おむ、おむ、

祇園、素盞鳴、大、素、命、也、大、素、命、天、武、神、之、
おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、

垂、に、天、武、天、皇、之、
おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、

千、幡、と、おむ、おむ、
おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、

又、武、祝、也、
おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、

おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、

おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、おむ、

祇園大明神祭日 五月五日

天照太神ノ祭日 五月五日 五月五日 五月五日

當社の祭禮者ハ二月十日ハ神樂博シメハ神

儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

神儀ハ神樂者ハ小秋退治ノ儀ハ神

石鳥居一基 延寶二年卯建

浄穢

八幡大神 西宮大神 多岐大神 大國主
比賣大神 稻荷大神 二宮大神 辨才天
天神 淨穢大神 淨供屋

掃山宮末社付書 日辛酉の満神と末社を

いしつゝ今ハ廢絶してたの如し

八幡大神 西宮大神 多岐大神 大國主

比賣大神 稻荷大神 二宮大神 辨才天

天神 淨穢大神 淨供屋

浄穢

石鳥居一基 延寶二年卯建

不流 不攪 咸且容之

右ノ文字字書攷非ハ考ル所ナシト曰ク

も訓也

流 エテウ 深威也又遠也攪 ソウ 寔也威 カニ

容 ヨウ イル 且 カ 不也

祇園の神ノ事ナシト云々集ル甲

家ノ布巾ナキハ禰ノ事ハハシクハノ事ナシ

祇園の事ナシト云々丹ノ事ナシ

誰不也ト云々神ノ事ナシ

一考 是ノ事ナシト云々

一若冥八掃 是ノ事ナシト云々

一吉祥天 是ノ事ナシト云々

一今也 是ノ事ナシト云々

一細輪天神 是ノ事ナシト云々

一 是ノ事ナシト云々

一 是ノ事ナシト云々

一 是ノ事ナシト云々

一 是ノ事ナシト云々

一 是ノ事ナシト云々

一 是ノ事ナシト云々

不流 不攪 咸且 容之

右ノ文字字書攷非ハ考リ得ルニ同

も 訓也

流 エテウ 深威也又遠也 攪 ソウ 寔也威 カニ

容 ヨウ イル 且 カ 不也

祇園の神ノ事ハ イテ 玉葉集也

家ノ者母ノ事ハ 祇園ノ事ハ イテ 祇園ノ事ハ

祇園ノ事ハ イテ 祇園ノ事ハ

誰不也 イテ 祇園ノ事ハ

流攪ノ事ハ イテ 祇園ノ事ハ

一 考ノ事

イテ 祇園ノ事ハ イテ 祇園ノ事ハ

一 若宮ノ事

イテ 祇園ノ事ハ イテ 祇園ノ事ハ

一 吉祥天

イテ 祇園ノ事ハ イテ 祇園ノ事ハ

一 今徳位

イテ 祇園ノ事ハ イテ 祇園ノ事ハ

一 細輪天神

イテ 祇園ノ事ハ イテ 祇園ノ事ハ

菅原相代ノ事ハ イテ 祇園ノ事ハ

海邊ノ事ハ イテ 祇園ノ事ハ

一 聖國八幡神二氏

多摩郡 三村

相模 井ノ水神
福倉の神

井ノ水神と同象女命之御霊也福倉の神号
つゆみ母の御別記 女神社之福上之卯
革流御霊神と津島氏出守に山内氏
御霊

一 掃田月神 祭辰五月十日

三村

一 十六天神 口五月十日

三村

一 八幡神 口五月十日

三村

祭辰の神は八幡正母御満御神
系社 三村

一 天神 一宇

三村

一 若八幡 御辰御編 祭辰五月十日

三村

一 天神 社が 八幡神

三村

一 河内八幡神

三村

此の二天の神

一 天神 一社 八幡神

三村

一 竜樹権以 祭辰五月十日 祭辰五月十日

三村の七公の御霊

一八幡大神 相殿 天徳神 祭禮九月廿九日 堤村
 一河森大明神 祭禮八月廿八日 行山村
 一光弘明神 祭禮十月廿日 行山村
 一垣安命 祭禮十月廿日 行山村
 一天神 一字 山王権以 一字 廿七 権以 行山村
 一十六天神 祭禮九月廿日 七港村
 一飯盛権以 九月廿日 田村
 一天神 一字 田村
 一法坊大明神 九月廿日 原村
 一天神 二社あり 行山村

一赤良天神 祭禮 飯倉村
 一天満天神 祭禮 行山村

家人云傳一若坐相殿の村久の法坊大明神
 一若一法坊大明神 祭禮 行山村
 此中女文と云ふは 祭禮 行山村
 祭禮の村神廟 祭禮 行山村

一電主神 一社

行山村

上天神 小土佐神より佐神 志武村

上天神 石目 川村

上天神 竹取 香積寺香積寺 西油村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 石丸村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上天神 幣敷 幣敷幣敷 川村

上十二社位以 兼日石目坂村氏神之日村
首口平口池田野田大正城系仙河神也
名眼山寺村也

上二社位以 兼礼九月五日 西村

一中山之明神 兼礼九月五日 一庭狭心神 九月五日

一峯天神 兼礼九月五日 一伍子天神 九月五日

一山之神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 石谷村

一之所大之神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 曲淵村

一山之神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 小栗村

一天神石神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 好根村

一山神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 椎桑村

一清入明神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 日村

一五社大明神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 椎桑村

兼安明神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 八幡大神

兼安明神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 兼安明神

兼安明神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 兼安明神

一六山寺天神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 日村

一天神 兼礼九月五日 兼礼九月五日 柏野村

一初志位以 兼礼九月五日 兼礼九月五日 兼礼九月五日

兼礼九月五日

海邊より山麓の七人寺許横五尺三寸八人
に此廣中同小徳り傳して入ル奥より六人傳り石
厨より年方夫の石像を奉りて八月十日小祭多
是也名傳ゆ未社の由也右より記也

一 妙見 兼礼少戸の由小方を此廣の伝也

一 小戸大明神 此廣の由別少戸山小神社也

此御神は伴年流る伴年冊を此御神は
此御神は伴年流る伴年冊を此御神は
此御神は伴年流る伴年冊を此御神は
此御神は伴年流る伴年冊を此御神は
此御神は伴年流る伴年冊を此御神は

此御神は伴年流る伴年冊を此御神は

此御神は伴年流る伴年冊を此御神は

一 飯盛之社 相殿 兼礼少戸の由小方を此廣の伝也

此御神は伴年流る伴年冊を此御神は

此御神は伴年流る伴年冊を此御神は

此御神は伴年流る伴年冊を此御神は

此御神は伴年流る伴年冊を此御神は

此御神は伴年流る伴年冊を此御神は

冊多九教玉依姫左殿八幡大明神トアリ
御六伴持冊多リ伍盛権臣ト称スル也
伍盛の社ハ文徳天皇の河宇天安二年戊寅
清和天皇の御額あり

社説曰清和天皇を勅使和氣清安ト向
神事ヲ始メ年中二十六年ノ祭禮アリ
等アリ社頌於千平部御百宇東所宇跡云

平部又信之利 順ノ侍也
百六代住宗良帝天文年中足利公ヲ
公減神供料終セ所ニセラレ百七代三教所

院天正年中秀吉公患シ深快テ宮内
九州の大礼小減也神流一西神祭石祭の柳
子ニツ今と強ク有リ

一権以 祭禮 伍盛村

末社 天神祭始メ母社

天可坊と伍盛山神守志教後云

一室見大明神 伍盛村

神社今いそぐ伍三川の巻成し
この地も地果りおた洋

一小山神祭礼十月五日 伍盛村

大國匠小法送りては、まゝ例に依りて

山ノ傳りて傳ふ

一辨才天 松尾村と境の山に松山尾須あり

省松山上より河神と云ふ所の民信年才天と云

是は世傳者云ふは未説之に傳はる省

振山尾須の神社宗像田邊之神也

昔の言説云甲長部松尾村と境の山に松山尾

須と云ふ所の河神と云ふ所の民信年才天と云

是は世傳者云ふは未説之に傳はる省

振山尾須の神社宗像田邊之神也

昔の言説云甲長部松尾村と境の山に松山尾

須と云ふ所の河神と云ふ所の民信年才天と云

是は世傳者云ふは未説之に傳はる省

振山尾須の神社宗像田邊之神也

昔の言説云甲長部松尾村と境の山に松山尾

須と云ふ所の河神と云ふ所の民信年才天と云

是は世傳者云ふは未説之に傳はる省

振山尾須の神社宗像田邊之神也

昔の言説云甲長部松尾村と境の山に松山尾

須と云ふ所の河神と云ふ所の民信年才天と云

是は世傳者云ふは未説之に傳はる省

振山尾須の神社宗像田邊之神也

昔の言説云甲長部松尾村と境の山に松山尾

須と云ふ所の河神と云ふ所の民信年才天と云

是は世傳者云ふは未説之に傳はる省

夫より信々疑々又事たりと福なり火事あり
悉く焼失と世河山の事等誠を詳かほり
早瀬の事なり

省根山の上より読下かえ事能前因
比日以前は家領小くはし一に之福を
癸酉十月十二日の事也

松土郡

○ 雷山神社

栗村、山あり

上宮の瓊々杵を奉る神社に伝記あり

古山神層増波野山に在り別層増波山神あり

山の事と云ふ層増波に云魔を有りと云村を述

申より上宮二十七年位上ノ嶺也

層増波の神は社 縁野の神也 天神七大神
社に奉祀

天神七代の神社一戸 水神五代の神社一戸

雷大権取の社一戸 沙詣羅龍の社一戸

石四社ある事あり八田堂記に云くは此の事なり

中宮新神五坐 一神小方中一宮他後と

中殿水天雷電神 祭日毎月十九日

左脇弓張大明神 聖母大明神

右脇住吉大明神 八幡大明神

水天雷電神 一宮小方の紀伊守神等御鏡ヲ板可遇

実智ヲ斬リ二限ナク其二限是世常神トナルハ

別是也高神トは中乃亦方高ト云々余志

の神トは世相親小社ト奉仕一

下宮二代延和神相親相親 延和神

本社は善念の二所中道の心延和神あり是に云

家小記行と也

石中下々の神二類分也社記小方

本神社は高初帝皇と特家家ト初類ト云々

百所ト神願等あり他論旨江都書圖ト願

文字等古道あり九初大祀の時社願等伝

天二年小甲川澄系らむ九名の社願年附き

とも息秀秋心とていふ人伝はす

を長のは星向思えり社願上之に中葉各小

本拾遺坊中端と云々於て云々

寛政二年七月早一 是利其

訪りて雲手後山魚沼にて西澤川の直あり
一首と詠一室感ふ山あり

世の果ていづくに人なる神のまはらたき天の下

神切屋伝三隣延ばしんて之中より入る

増設業として天神地神と兼せり

天神七代地神五代の意は二社あり

雷神八幡瓊皇白銅鏡天叢雲鏡

廿二娘神蓋と名の申して

人とははたしなまて初穂として

寺と建と一霊鏡寺と名は

ほほて子也寺也神也松林七ヶ寺の第一と残

て寺の皆雷山と云ふ

右の坊十区あり今二坊あり

仲ノ坊 室池坊 惣持院 是也

首の高山と山体にて

る山伏の坊きりて

のこも海を渡りて

たに惣持院に古

定寺寺惣持院

社のたふ録と云ふ千平千眼の佛と云ふ

一七軍兵とてつる舟に乗國都を治す
然るにちまの世に所小を信の沙遣法後
社家の流小神功皇后之朝に証候人として先
小とて上を居移波岳より天神地神と祭り
ふりし原石小大國之韓の軍に勝利を賜ふ
一 曹山千守等奉修り亭附書補是

一 師記一卷紙令元本島之奉撰銀長之り

一 論旨三通心一通江流者之護文は令流行世に

一部身卷三年九月十日 大九年

一通元弘三年五月十日 或抄書

一通建武二年九月十日 石少翁

一 河室河月筆

一 嵩山領地収買検見印 天作

一 押領地停止河教書 其奥より武蔵守年相信

一 夫職階伏状 永仁より前紙後守

一 日状 永仁より大平前守

一 年中堂宮佛神史勅切半正女之

一 撰器量補に額紙之重文 正業より前紙後判

一 六波羅河教書中文造書用途書懸り 入道御監

一 同正文正書抄并字後流文 正業より

一 造文到案书 元保元 在案

一 藏未造教返状二通 在案

一 大府直造部令河渡书 延暦二年大府直造部令

一 号民口数书 二五口一通 自号

一 号民口数村书 延武二年造列

一 造文河教书 延武年中

一 藏未造教返状 移与

一 持備停止河下文 延武二年

一 函送讨河河教书 唐哀二年 沙河

一 直河河教书 沙河行书 自和六年

一 口河教书 沙河行书 延和五年在案

一 函送返河河教书 延和五年 在案

一 延和六年家况考进状 延和六年 在案

一 系田在楠田寺是田之河地 延和六年 自和

一 波吕村地是之河渡状 永享九年 奈波

一 系田在河之河安案 永享六年 宗上

一 口地并进状 永享六年 在案

一 志摩郡是元田河考进状 永享六年 在案

一 石河河考进 天明五年 在案

一 口河河渡 天明七年 在案

一 志文派制札安

心家六年 疎

一 奉書

永享六年 神

一 湖田浦

永享六年 秋

一 湖田浦

大永七年 秋

一 湖田浦

二年 安

一 石川地寄進

天文二年 行

一 石川地寄進

貞

一 赤山村山伏之町寄進

貞

一 大府直

貞

一 赤山村山伏之町寄進

貞

一 赤山村山伏之町寄進

貞

修善寺山伏之町寄進

貞

一 赤山村山伏之町寄進

貞

一 赤山村山伏之町寄進

貞

一 赤山村山伏之町寄進

貞

修善寺山伏之町寄進

貞

一 赤山村山伏之町寄進

貞

修善寺山伏之町寄進

貞

一 赤山村山伏之町寄進

貞

修善寺山伏之町寄進

貞

源頼朝師の時を以てし、後の事也
永三年、東山、海安、御共、神宮、社、の、頼、成、の、一、所
と、お、も、た、ま、し、た、新、の、道、と、い、ふ

元禄二年、東山、海安、御共、神宮、社、の、頼、成、の、一、所

今、(一)は、天正、十、年、東山、海安、御共、神宮、社、の、頼、成、の、一、所

天正、十、年、は、人、志、摩、郡、の、由、也、と、神、田、所、が、出、た、

天文、二、年、者、と、社、國、主、光、之、と、依、り、て、居、る、

石、多、く、九、文、神、宮、九、月、創、り、と、記、し、文、字、の、家、院、

見、所、定、成、と、い、ふ、因、果、好、信、を、依、り、て、居、る、

い、し、一、大、く、出、た、り、と、記、す、の、り、と、い、ふ、跡、有、り、

二 徳野権成 本記の日本九日 大村

大古澤井山の霊玉塔といふ社、一、上、と、申、す、と、い、ふ、

神領と大分也、一、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、

建、延、平、二、区、神、社、神、宮、好、信、を、依、り、て、居、る、

九、圓、の、大、札、と、い、ふ、神、は、佛、國、悉、く、焼、亡、家、宅、も、後、に、

又、後、に、神、領、と、い、ふ、を、依、り、て、居、る、と、い、ふ、と、い、ふ、

徳野権成の社形許也

一 澤井神社 水たき神 本記 同、竹、井、村、に、

一 光雲天神二社 本記 本記、本記、本記、本記、

上 祇園の神

九月廿二日

奉次

上京村

上 天神

九月廿二日

二地村

上 若一王子

九月廿二日

赤木村

上 伊弉大神

九月廿二日

井田村

上 鬼松王神

九月廿二日

川村

上 老松王神

九月廿二日

川村

上 榎木天子

九月廿二日

園野村

上 二座王神

九月廿二日

飯民村

上 山ノ神二社

九月廿二日

飯民村

上 熊野権以

九月廿二日

河原村

上 妙見

九月廿二日

五尾村

上 天神

九月廿二日

川村

上 天満王神

九月廿二日

三村

上 上天子

九月廿二日

山小村

上 宇田大明神

九月廿二日

山崎村

上 上六子

九月廿二日

美久村

上 福大神

九月廿二日

美久村

同部 公領合

上 宝満の神

九月廿二日

美久村

いづれも山ノ神 宇田大明神 天満王神 妙見

深し付山地活河神と興山寺所傳の正體の
流石遺座ありし地拾し其業也切清く年々三
十年乙未と云ふいふ及

一 寶滿天神 祭礼 為持村

水卒の心利と申

一 神功皇后幡大神 祭礼 惟水天神 口村

一 行反 祭礼 右村

一 幡大神 祭礼 左村

九月の川堤を築き二年の間に成りて後河原あり
其水二年大流民を被建と申す備有ありと云ふ

石小の石積成りて石の石積なり

一 祇園 祭礼 口村

一 天神 祭礼 左村

吾々の山の中華に書き傳へる事と載る事其六民家
多く漢人の石の海邊に書き傳へる事と載る事其六民家
可也山坐河あり道一社中地場あり

一 大明神 祭礼 飯草村

中興文志社中

一 傳宗控反 祭礼 小倉村

電傳控反と申す祭礼ありし地場なり

神功を伝へての如き一巻の巻記ありて少

事と云ふは神代巻にては神代巻の神代巻と云ふ

と号して古佛の故音遣はすは少

足利の氏宗國主殿の領事方進休等より

し一巻後には伊豆守の持合僅小は説

音事と云ふは伊豆守の持合中七の巻

八情大神 兼礼 兼付

付し一巻の巻記の神代巻の兼付

は神代巻の兼付の神代巻の兼付

は神代巻の兼付の神代巻の兼付

一情大神 兼礼 兼付

一天神 兼礼 兼付

二情大神 兼礼 兼付

六社にては兼礼の兼礼の兼礼

之は神代巻の兼礼の兼礼の兼礼

本記の兼礼の兼礼の兼礼の兼礼

而して兼礼の兼礼の兼礼の兼礼

兼礼の兼礼の兼礼の兼礼

一巻の兼礼の兼礼の兼礼の兼礼

兼礼の兼礼の兼礼の兼礼の兼礼

寺秀多流... 洋... 寺... 記...

一 山... 村

口村... 山... 岳...

一 幡大神... 村

貞享二年...

一 山... 村

一 神... 村

之... 今... 名... 神... 記... 令... 社... 高... 推... 建... 日... 天... 圓... 箇... 令... 抵... 某... 條...

毛國忌部之記

鹿津... 村... 鹿津... 村... 鹿津... 村

名... 社... 記...

志摩郡

一 志摩大石神

志摩九月廿日

志摩村

神前十九神の内也 志摩神農王姫也 海神
如導りたるなり 志摩村

延喜式神名帳に志摩郡志摩神は一祭とあり

志摩郡小島と相傳ふる神二所あり

年上殿神切名年二殿と云ふ神事殿

志摩郡神事に志摩大石神と云ふ神事

個所志摩郡あり又云ふ巫女八神合人衆人

八人あり神事あり 志摩郡志摩村

福園奥所を古本より所を

止非社よりして神直目 大直目 八十柱

二神と彼の御本之足奥の此神剣之此の

長六尺六寸一尺の曙ら海才剣之此の

と十河洋の古本よりして

古本より國事より定永九年文に成流と

止非社神と古本より定永九年文に成流と

十河洋の古本よりして

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

此の社より坊舎より佛園より

- 一 宝冠 一 張
- 一 手鉞 二
- 一 矢甲 二
- 一 宣命箱 一 冊
- 一 金幣 二 流
- 一 万年州 二 年
- 一 火面玉 一
- 一 金網 一 色
- 一 長刀 一 張
- 一 尖漏矢 二 箭
- 一 五十冷流 一
- 一 託宣 一 冊
- 一 張幣 二 流
- 一 馬角 二
- 一 紅漆俵 一
- 一 綿 一 色
- 一 鑿 二 色
- 一 神鏡 二 面
- 一 弓 一
- 一 淨斗袋 一
- 一 雲山繪 二 冊
- 一 千草繪 一 色
- 一 伽陀 一 冊

栴井神社の村氏のま

神社 與止娘の神 相傳志摩國の神

岩戸國基を長久二年庚戌元永二年國主
 長政守建之令はは定永九年忠之公
 造之末社 神祇を大社祇儀二百万神

伊弉諾大神 八幡大神

春日大神 神祇神社

祇園神社

おむひーの末社中今々々

社領書卷七本八公外 下共并一石半

一 神鳥 一 羽

一 神馬 一 匹

車川部

一 山見 石

一 赤方天

一 大威明神 糸乳前落

村氏子安神をたむるの神にあらまはる

大威の神の事鳥尊の事也

二 代々神 元々良平之日良神也

大威神位下校松ア有と云神の事也

一 山見 山見の神也

一 山見の神

一 山見の神

糸乳の神 糸乳の神也

糸乳の神 糸乳の神也

一 山見の神

一 山見の神

一 山見の神

一 山見の神

一 山見の神

一 山見の神

一 山見の神

一 山見の神

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

山見

一 熊野権取 全礼九月

高麗人 小倉村

高麗の流る熊野権取は素より高麗の地を
海に舟をよせたる社を造りて權を假し人
を之に中せしむるにや

熊野社 河原のありて是又信長の子孫熊野
の事なりと云りて海流のありて神

と云ふ事初

この熊野記熊野権取は素より高麗の地を
海に舟をよせたる社を造りて權を假し人

を之に中せしむるにや

供所者なり記曰熊野権取は神武天皇の
記神武天皇は高麗の又天皇神武天皇
権取は高麗の神武天皇は高麗の神武天皇
詳し

佛者熊野権取は素より高麗の地を
海に舟をよせたる社を造りて權を假し人
を之に中せしむるにや

熊野権取は素より高麗の地を
海に舟をよせたる社を造りて權を假し人
を之に中せしむるにや

別神或曰...
此...
神...

傳記曰...
此...
...

一年...
...

...

一天神
...

...

...

...

...

上天満了神

金邊

初所河

一 八六龍王

細川

新井村

一 土志神

土志

口村

一 山王社持原社

小鳥社木志社神社神社

久多村

一 老松天神

老松

口浦

一 志比須

口上

口村

一 老松天神

志比須

口浦

一 宇賀神社

宇賀

一 村小

一 六所行段

六所

馬場村

神功皇后八幡大神 延喜所行段 志比須

志比須 志比須 志比須 志比須

志比須 志比須 志比須 志比須

志比須 志比須 志比須

一 志比須

志比須

口村

一 志比須

志比須

一 志比須

志比須

一 志比須

志比須

一 志比須

志比須

一 志比須

志比須

神、住居上之格、
一、
一、

一、
一、
一、

相、
相、
相、

相、
相、
相、

相、
相、
相、

相、
相、
相、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

相、
相、
相、

相、
相、
相、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

相、
相、
相、

相、
相、
相、

相、
相、
相、

相、
相、
相、

一	一	一	一	一	一
六	三	德	三	三	神
田	水	德	水	水	神
神	神	神	神	神	神
口	口	口	口	口	口
上	九	九	九	九	九
月	月	月	月	月	月
神	神	神	神	神	神

如原村
 池田村
 三田村
 口田村
 初田村
 小田村

